

公立大学法人宮崎公立大学

平成19年度の業務実績に関する評価結果

平成20年10月

宮崎公立大学事務組合公立大学法人評価委員会

## 1 公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価の方法

「項目別評価」及び「全体評価」により構成する。評価委員会は公立大学法人の作成した実績報告書をもとに、公立大学法人の意見を聴取しながら評価を行う。

なお、教育研究については、その成果が現れるまでには一定の期間を要することから、年度計画の評価は事業の進捗状況の確認等により行う。

### (1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとの事業の進捗状況・実績について、以下の4段階により評価を行い、公立大学法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。

また、特記事項等についても記載する。

- |     |                   |
|-----|-------------------|
| IV  | 年度計画を上回って実施している   |
| III | 年度計画を順調に実施している    |
| II  | 年度計画を十分には実施できていない |
| I   | 年度計画を実施していない      |

### (2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎資料とし、年度計画の大項目(\*)ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

#### \* 大項目

教育研究等の質の向上／業務運営の改善及び効率化／財務内容の改善／自己点検・評価及びその情報公開／その他業務運営／予算

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| S | (秀) 特筆すべき進行状況にある (特に認める場合) |
| A | (優) 計画どおり (すべてⅢ～Ⅳ)         |
| B | (良) おおむね計画どおり (Ⅲ～Ⅳが9割以上)   |
| C | (可) やや遅れている (Ⅲ～Ⅳが9割未満)     |
| D | (不可) 重大な改善事項がある (特に認める場合)  |

### (3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大学法人の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画や中期目標、中期計画を総括する。また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取り組みやさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

## 2 全体評価

### (1) 総評

宮崎公立大学は、平成5年4月の開学以来、建学の理念である「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」として、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んできた。

18歳人口の減少など、大学を取り巻く厳しい社会情勢のもと、同大学は、地域に開かれた大学として、大学間競争に生き残り、今後ともなお一層発展していくため、平成19年4月に、地方独立行政法人として新たなスタートを切った。

現在、理事長や学長のリーダーシップのもと、法人化のメリットを最大限に生かしながら、迅速性、計画性及び柔軟性のある大学運営を円滑に進めている。このことは、理事長・学長特別配当枠研究費である戦略的経費の創設や第2種非常勤講師職、プロパー事務職員の雇用などを中心にかがえるほか、現に、事務の合理化・簡素化の推進を図り、平成19年度の当期総利益として6,780万円余りを計上したことからも明らかである。

また、同大学は、教育の基盤となる研究のひとつとして、チェックリスト・システム(PACS)の構築に取り組んでおり、教育を重点目標としている本学の業務実績として積極的に評価をすることができる。併せて、この方面での教授法・評価方法の研究に特化している姿勢は、今後、研究に関する目標においても、高く評価されるものと思われる。

さらに、地域貢献に関する取組として、地域研究センターを拠点とし、公開講座及び自主講座の充実並びに情報弱者へのIT支援の拡充を図っている。回数もさることながら、取組内容にも工夫が見られ、その貢献度の高さに目を見張るものがある。

学生支援に関しても、臨床心理士の資格を持つ相談員を配置するなど、中期目標の達成に向かって実績を積んでいることが年度計画の中にかがいがい知ることができる。

今後、魅力ある大学づくりに関する取組について、学科の再編や新設に向けた計画策定が進むと思われるが、地域住民や高等学校等のニーズも高いことから、積極的に取り組んでいただくよう期待する。

全体的には、同大学は、法人化初年度にもかかわらず、意欲的に大学の改善に取り組まれており、質的にも量的にも大いに評価できる内容となっている。教育システムの更なる充実並びに学術研究、地域社会貢献及び地域との共同研究などにおけるダイナミックな展開があれば、今後、さらに魅力的で活気ある大学になっていくものと思われる。

今後とも、理事長や学長をはじめ、教職員が一丸となって、先進的な取組を行い、地域に根ざし、地域に愛され、地域に開かれた魅力ある大学として、なお一層発展されることを強く期待する。

## (2) 今後の課題

- ① 今後の認証評価を迎えるにあたって、「実施状況・判断理由」に記載された内容のデータバンク化（実績証拠の保存）が必要である。また、取り組まれた項目は、P（プラン）D（実施）C（チェック・評価）A（再実行）というサイクルの中で、常に中期目標が確実に成果を生むような仕組みで実施されることが望まれる。
- ② 「ハラスメントに関する啓発」に関する年度計画等の展開においては、相談体制も鋭意充実の方向にあるが、学生支援の観点からは、ハラスメントに遭遇する可能性の状況判断とその時の対応等を学生側に学習してもらう支援策も重要である。
- ③ 大学を評価する際、制度面での改善も大きな視点であるが、学生の大学に対する評価も重要である。本学が学生にとって期待していたとおりの大学であるのかどうかを知ることも、今後の魅力ある大学運営を図る上でひとつの大きな要素となる。
- ④ 大学の「年度計画」及び「実施状況・判断理由等」に記載された内容に、不適切な言葉の使用が散見された。特に「年度計画」の進捗度を評価するに当たっては、ひとつの言葉に多義性を持たせると、適切な評価ができないばかりか、言葉によってはあらぬ誤解を生じることもあり、一層の注意が必要である。

### 3 大項目別評価

#### 3-1 教育研究等の質の向上

##### (1) 評価結果及びその判断理由

###### ア 評価結果

A (計画どおり)

###### イ 判断理由

この項目についての小項目別評価の集計結果では、小項目数65項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ)評価」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

(参考) 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
65	4	61	0	0

##### (2) 特筆すべき点・遅れている点

###### ア 特筆すべき点

- ・ 基礎演習Ⅰ・Ⅱの見直しは、本学の特色である教育力推進の具体的事例として、今後とも注目される取り組みである。
- ・ 大学教員間では障壁の多い、教員相互の授業参観が「FD実施要項」によってさらに実のあるものになるはずで、この取組は積極的に評価できる。
- ・ 研究費と旅費の使途について、弾力的な運用が可能になったことで、教員にとっては研究活動の充実が図られる。
- ・ 県内の高等教育機関として初めて取り組んだ開放授業の検討について、当事業は、地域住民も強く関心を持つ事業であり、評価委員会としても、20年度事業の進捗について注視していきたい。

###### イ 遅れている点

- ・ 特になし。

##### (3) 評価委員会の意見等

- ・ 入学段階から学生一人ひとりの能力に応じた到達度目標を掲げ、きめ細やかな指導をめざしたPACS計画は大いに期待できる。
- ・ 基礎演習のための講義計画書を協働で作成し、共通のテキストを使用するという事は、同じシラバスを基に組織として教育に当たるということであり、大学の熱意を感じる。
- ・ 卒業論文の公表は、学生の意欲を喚起するだけでなく、大学の評価を広く社会に問う貴重な機会となる。
- ・ 教員相互の授業参観は先進的な取り組みであると認められる。

- ・ たとえ現代G P等が不採択となっても、P D C Aサイクルを念頭においた取組の継続を続けて欲しい。
- ・ 英語が世界共通言語になっている現在、学術交流協定校の拡充に関し、英語圏への留学や、英語圏外国人留学生受け入れの増大に向け、検討が必要かと思われる。
- ・ 除籍の見直しは、学生一人ひとりを大事にした取り組みであり評価できる。
- ・ 臨床心理士の資格を持つ相談員を配置するなど、ハラスメント防止対策委員会の機能の強化の取組は着々と実施されているが、学生支援の観点からは、ハラスメントに遭遇する可能性の状況判断とその時の対応等を学生側に学習してもらうことも重要である。
- ・ 相談件数が増えたことは評価できるかどうか判断に迷うところであるが、臨床心理士の資格を持つ相談員を配置したことは大いに評価できる。
- ・ 臨床心理士の相談員配置によって、相談件数が4倍になっているのは、適切な体制作りが図られたからと思われる。相談件数200件について、内容や対処の結果・問題点などのデータにも関心がある。
- ・ 私費留学生の宿舎確保の検討を行うなど、留学生受け入れに意欲的である。
- ・ ホームカミングディの実施は、同窓会との連携強化を図る上で、大きな前進である。
- ・ 高校進路指導教員との連絡会の開催について、理事長と学長が高校や教育事務所を訪問したことは画期的なことではないだろうか。
- ・ 教職実践演習の授業が来年度から義務付けられる予定であるが、それに先立ち前倒しで試行することは大いに評価できる。
- ・ 公開講座の構成に工夫が見られる。語学講座も中国語、韓国語、英語に分かれ、地域住民のニーズに十分対応できる体制が構築されつつあるのではないだろうか。
- ・ 公開講座・自主講座の開催など、生涯現役時代に備え、社会人に対する自己啓発再教育の場を提供していくことは重要と思われる。
- ・ 公立大学の特性が活かされた地域社会に開かれた質の高い講座や履修生制度の充実は、市民から期待されていると思われる。
- ・ I T教育支援室の拡充・情報弱者へのI T支援の拡充は、地域に開かれた大学として評価できる。
- ・ 情報弱者へのI T支援の拡充について、情報弱者を細分化した上での取組は、他の大学には見られないきめ細かい地域貢献として、その貢献度の高さが積極的に評価できる。
- ・ 地域貢献総括組織の設置によって、関係機関との連携も進み、前向きに評価できる。
- ・ 魅力ある大学づくりについて、着々と取り組みがなされている。今後、新学部・新学科の検討が進むと思われるが、期待したい。
- ・ 新学部・新学科の設置や大学院の設置は大学に幅と深みを加えるだけでなく、多様化した社会のニーズであり、早期の設置に期待する。

### 3-2 業務運営の改善及び効率化

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

A (計画どおり)

##### イ 判断理由

この項目についての小項目別評価の集計結果では、小項目数18項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ)評価」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

(参考) 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
18	0	18	0	0

#### (2) 特筆すべき点・遅れている点

##### ア 特筆すべき点

- ・ 特になし。

##### イ 遅れている点

- ・ 特になし。

#### (3) 評価委員会の意見等

- ・ 特になし。

### 3-3 財務内容の改善

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

A (計画どおり)

##### イ 判断理由

この項目についての小項目別評価の集計結果では、小項目数15項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ)評価」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

(参考) 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
15	0	15	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・ 特になし。

イ 遅れている点

- ・ 特になし。

(3) 評価委員会の意見等

- ・ 特になし。

3-4 自己点検・評価及びその情報公開

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり)

イ 判断理由

この項目についての小項目別評価の集計結果では、小項目数2項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ)評価」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

(参考) 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
2	0	2	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・ 特になし。

イ 遅れている点

- ・ 特になし。

(3) 評価委員会の意見等

- ・ 特になし。



### 3-5 その他業務運営

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

B（おおむね計画どおり）

##### イ 判断理由

この項目についての小項目別評価の集計結果では、小項目数13項目に対して、「年度計画を上回って実施している（IV評価）」又は「年度計画を順調に実施している（III）評価」と評価した項目が12項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり）とする。

（参考）小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	IV	III	II	I
13	0	12	1	0

#### (2) 特筆すべき点・遅れている点

##### ア 特筆すべき点

- ・ 特になし。

##### イ 遅れている点

- ・ 情報の公開は住民の知る権利を保障するものであり、また、開かれた大学として対外的な認識を広げることにもつながるので、早急な対応をするよう望む。

#### (3) 評価委員会の意見等

- ・ 特になし。

平成19年度事業年度評価に係る小項目別評価の集計結果

(大項目) (中項目) (小項目)	項目数	項目別内訳				項目別構成割合				計	平均値	備考
		評価IV	評価III	評価II	評価I	評価IV	評価III	評価II	評価I			
第2 教育研究等の質の向上に関する目標	65	4	61	0	0	6%	94%	0%	0%	199	3.06	
1 教育研究等の質の向上に関する目標	41	2	39	0	0	5%	95%	0%	0%	125	3.05	
(1)教育内容と方法に関する目標	11	1	10	0	0	9%	91%	0%	0%	34	3.09	評価4(No.2)
(2)教育支援体制に関する目標	9	1	8	0	0	11%	89%	0%	0%	28	3.11	評価4(No.13)
(3)学生支援に関する目標	14	0	14	0	0	0%	100%	0%	0%	42	3.00	再掲(No.19)
(4)学生の確保に関する目標	7	0	7	0	0	0%	100%	0%	0%	21	3.00	
2 研究に関する目標	11	1	10	0	0	9%	91%	0%	0%	34	3.09	
(1)研究の方向と水準の向上に関する目標	8	0	8	0	0	0%	100%	0%	0%	24	3.00	
(2)研究体制等の整備に関する目標	3	1	2	0	0	33%	67%	0%	0%	10	3.33	評価4(No.49)
3 地域貢献に関する目標	12	1	11	0	0	8%	92%	0%	0%	37	3.08	
(1)教育研究成果の地域への還元に関する目標	11	1	10	0	0	9%	91%	0%	0%	34	3.09	評価4(No.53)
(2)地域の国際化及び国際理解に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
4 魅力ある大学づくりに関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	18	0	18	0	0	0%	100%	0%	0%	54	3.00	
1 組織運営の改善に関する目標	7	0	7	0	0	0%	100%	0%	0%	21	3.00	
(1)機動的な運営体制の確立	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
(2)予算の戦略的で効率的な活用	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
(3)外部意見の積極的な活用	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
2 人事の適正化に関する目標	11	0	11	0	0	0%	100%	0%	0%	33	3.00	
(1)法人化のメリットを生かした人事制度の構築	7	0	7	0	0	0%	100%	0%	0%	21	3.00	
(2)人事評価制度の確立	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
第4 財務内容の改善に関する目標	15	0	15	0	0	0%	100%	0%	0%	45	3.00	
1 自己収入の増加に関する目標	8	0	8	0	0	0%	100%	0%	0%	24	3.00	再掲(No.51,83,45)
2 経費の抑制に関する目標	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
3 資産の運用管理の改善に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
第5 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
1 自己点検・評価に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
第6 その他業務運営に関する重要目標	13	0	12	1	0	0%	92%	8%	0%	38	2.92	
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	再掲(No.56)
2 安全管理に関する目標	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00	
3 情報公開の推進に関する目標	3	0	2	1	0	0%	67%	33%	0%	8	2.67	評価2(No.105)
4 人権に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
合計	113	4	108	1	0	4%	96%	1%	0%	342	3.03	